

自己評価報告書(最終報告)

報告者

自然系コース(数学)
／秋田 美代

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ－1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれている必要がある。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

①最初の授業で学生に授業の到達目標についての基準表を配布し、授業の達成度について学生と共通理解を図る。授業期間の途中で学生に基準表と照らして授業の理解度、目標の到達度等を自己評価させる。また、成績評価は、観察、提出物、テスト等の評価法のうち複数を用いて行う。
②学生が教科や教育についての専門性を高めるとともに、教員として必要な思考力や判断力等を高めることができるように、授業に学生同士の討論・探求的学習等を取り入れ、主体的な学習活動を促す。

2. 点検・評価

①については、担当する授業科目の最初の授業で、学生に授業の到達目標・授業計画を配布し、共通理解を図り、授業の到達目標と授業内容についての関連について共通理解を図った。また、成績評価は、観察、提出物、テスト等の評価法のうち複数を用いて行った。
②については、課題に対する記述内容、授業への参加状況、アンケート結果等から、学生の理解状況を分析し、学生が教科や教育についての専門性や教員として必要な思考力や判断力等を高めたかを分析した。また、学生の理解度に合わせ、説明内容を付け加える等授業の改善を図った。また、学生が専門性や思考力・判断力等を高めることができるように、授業に学生同士の討論・探求的学習等を取り入れ、主体的な学習活動を促した。
①、②に加え、模擬授業等を取り入れた授業科目では、学生が自己の力を客観的に把握できるように、評価表を利用した模擬授業の評価を行い、その結果を学生にフィードバックし、学習指導案や模擬授業の修正点を考えさせた。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

①学生の自主的な学習活動を促すために、授業に学生同士の討論・探求的学習等を取り入れる。
②学生の授業に対する主体的な態度や自己の成長についての省察力を向上させるために、授業期間の途中で到達目標と照らして授業の理解度、到達度等を自己評価させ、学生自身が評価結果を基に自己の不十分な点・改善すべき点等を考えられるようにする。
③学生の進路、悩み等の相談に随時応じる。

2. 点検・評価

- ①については、授業で教員が学習者に分かりやすい算数・数学の授業を実践するために何が必要かについて、学生同士の討論・探求的学習等によって考えさせた。その結果、学生同士の討論等が活発になった。
 - ②については、学生の授業に対する主体的な態度や自己の成長についての省察力を向上させるために、記述、発表、討論等により自己の活動や思考を振り返る場面を設定した。
 - ③については、学生が学習・生活等で相談にきたときは極力その場で対応し、都合がつかない場合は、後で時間をつくり対応した。
- ①、②、③以外で、希望をした学生に対して、採用試験対策としての集団面接・模擬授業の指導・助言(5月初旬～8月中旬、週2回、1回4～8人程度)を行った。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

- ①「創造性の育成」、「教員を目指す学生の授業実践力向上」等に関する研究内容をまとめ、学会発表をするとともに学会誌に投稿する。
- ②学内外の研究助成の公募に積極的に申請する。
- ③現職の算数・数学科担当教員の協力を得て、教育実践としての研究を行う。

2. 点検・評価

- ①については、「創造性の育成」、「教員を目指す学生の授業実践力向上」等に関する研究内容をまとめ、学会発表及び学会誌投稿を行った。1編が論文として採択された。
 - ②については、研究分担者として科学研究費補助金を獲得した。また、研究代表者として科学研究費補助金を獲得するために応募を行った。
 - ③については、徳島県、高知県、福岡県等の公立小・中学校現職の算数・数学科担当教員の協力を得て、教育実践としての研究を行った。
- ①、②、③以外で、「問題解決における思考の一時的滞留」に関する研究を行った。これについても研究内容をまとめ、3件の学会発表を行った。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- ①担当する委員会の委員として、本学の運営に貢献する。

2. 点検・評価

- ①については、担当する「学校教育学部教務委員会」の委員として、本学の運営に貢献した。また、セクシュアル・ハラスメント等の防止等に関する規程に基づく相談員を務めた。
- ①以外で、コース長としてコースで協力して大学運営に貢献できるよう調整を図った。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ①附属小・中学校の算数・数学担当教員とメールや電話で連絡を取り合い, 研究活動, 児童・生徒及び大学生・大学院生に対する指導等について意見交換・相互協力をする。(附属学校)
- ②講座で開講する「算数おもしろ教室」に参加し, 児童・保護者に算数・数学の楽しさや不思議さを伝えること等を通じて社会との交流・連携を深め, 社会に貢献する。(社会連携)
- ③JICA等の国際協力事業に貢献する。(国際交流)

2. 点検・評価

- ①については, 附属小・中学校の算数・数学担当教員とメールや電話で連絡を取り合い, 研究活動, 児童・生徒及び大学生・大学院生に対する指導等について意見交換・相互協力をした。
 - ②については, 徳島県教育会が開催した「徳島わくわく算数教室」の講師を務め, 地域の教育活動に貢献した。また, コースで開講する「算数おもしろ教室」に参加する等により社会との交流・連携を深めた。
 - ③については, JICAの委託事業である「大洋州地域初等中等算数・数学教育」のコースリーダー・指導教員を務め, 国際協力事業に貢献した。
- ①, ②, ③以外に, 教員研究会での指導助言や科学研究費補助金によるラオス人民民主共和国の理数科教育への国際教育協力を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

学長の定める重点目標である「教育大学教員としての授業実践」及び分野別「教育・学生生活支援」, 「研究」, 「大学運営」, 「附属学校・社会との連携, 国際交流等」のいずれの項目も目標・計画は確実に実行できた。また, 当初の目標・計画に付け加えて実行できたことも多かった。したがって, 平成23年度の本学への総合的貢献度は大きかったと判断する。